



# 地域と学校の協働シンポジウム

去る9月19日(土)、東京都教職員研修センターにて、「地域と学校の協働シンポジウム ～理不尽クレームから相互理解へ～」が開催されました。

昨今の学校現場では、理不尽クレームへの対応が大きな課題となっており、問題の解決までに膨大な時間とエネルギーを要する 경우가少なくありません。

そこで、このシンポジウムは、理不尽クレームをはじめとした学校で発生する様々な問題を未然に防止するために、「協働」の視点から、学校や保護者、地域住民等がそれぞれの立場でできることを一緒に考えていくことを目的に東京都教育委員会が企画しました。

基調講演では、「地域と連携した子供たちの育成について～『栗の樹ファーム』の取組から～」というテーマで、スポーツジャーナリストの栗山英樹さんに、北海道栗山町で地域住民と一緒に取り組んでいる野球場(栗の樹ファーム)作りの経験を紹介していただきました。

荒地だった斜面を整備し、子供たちの安全のために、フェンス代わりにひまわりやとうもろこしを植える等のアイデアを出し合うなど、野球場が完成するまでに、地域の中に協力者が徐々に増えてくる様子をスライドを用いて説明されました。また、野球以外にも、音楽、陶芸、絵画等の教室を地域住民と連携して開いている様子が語られ、子供たちのために多様な体験活動の機会を作り出していることが伺えました。栗山さんは、最後に、「自分のやるべきこと、目標をしっかりと持ち、真正面にぶつかると何かが生まれる」とメッセージを送り、連携の力や重要性等、「協働」について考えるヒントを示していただきました。



続くパネルディスカッションでは、「保護者・地域にできること、学校にできること」をテーマに議論を行いました。前半の意見交換では、例えば地域の立場からは、親の孤立化が課題として挙げられ、相談相手がないことが、結果としてクレームにつながっていくという説明があり、社会全体の関係性がぎくしゃくしていることが問題点として浮かび上がりました。

後半では、参加者からの質問に各パネリストが答えながら議論が進行し、学校の教員は1人で抱え込まずに仕事を上手に分担する、子育て中の親に対しては地域住民同士がサポートする等、人の優しさを感じることで、

そこにゆとりが生まれていくなどの意見が出ました。コーディネーターの小林さんは、このパネルディスカッションを通じて、学校、保護者、地域の人々が相互に支え合い、やり甲斐のある所に、やりたい人が集まるようなネットワークを作り上げていくことが求められていると締めくくり、問題の未然防止に向けた提言を行いました。

コーディネーター	小林 正幸さん(東京学芸大学教職大学院長)
パネリスト	生重 幸恵さん(NPO法人スクールアドバイスネットワーク理事長)
	福島 展子さん(世田谷区立奥沢小学校PTA会長)
	脇山 幸之さん(おやじ東京会長)
	露木 昌仙さん(練馬区立上石神井小学校長)
	嶋崎 政男さん(立川市立立川第一中学校長)
	松浦 宏明さん(東京都教育相談センター次長)